

ノコ
ち
や
ん

華麗なる食べある記



△大 井 △46 V 高 級 肉 料 理 大 井 △46 V スパゲッティ専門店 壁 の 穴

□大 井

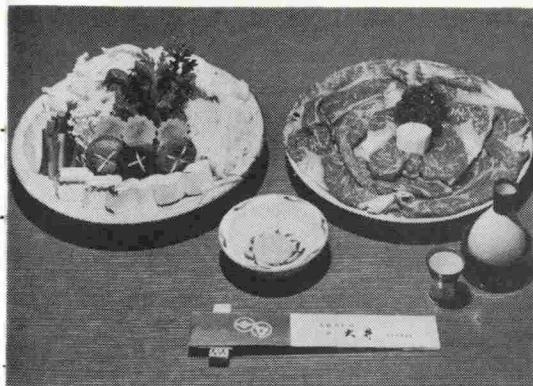
★明治4年創業。伝統と品質を誇る大井の神戸肉

うまいものの座談会で、すき焼きの話が出た。むしようにすき焼きが食べなくなつた。我家では、正月のもちを焼く時と、すき焼きだけ、父がはしを持った。まず肉を焼き、その上から砂糖をまぶし、しょう油を落とし、おもむろに野菜を入れていく。かなり濃い目の味つけで、生卵について食べると、いつも私だけ、卵がすぐには無くなつた。すき焼きはまた、学生時代のコンパの想い出でもある。女がやるものと頭から決めてかかる男共を、なだめたりすかしたり、おだて上げて煮いてもらつた。いつも甘すぎたりからかつたり、最後にはビールやお酒が混じり込み、とても食べられる代物ではなかつた。

もう何年も、すき焼きしきものに当つていない。しやぶしやぶのイメージが強かつた「大井」、すき焼きもあると聞いて、そりやあ肉屋さんだもんと今更ながら納得しつつ、勇んで出かけていった。明治四年の創業とい

うから、今年で百十年の歴史である。今の、立派な肉店のビルは昭和四十二年からで、以前の木造三階建ての建物は明治村にあるという。初代が建てた洋館である。そもそも、この初代のおじいちゃんが好奇心の旺盛な方で、神戸に肉をもたらした最初の人ともいえるのだが、きっかけは、外国船の船員からとのこと。はしけで日用品を運んで行くと、なにやら妙なものを食べている。ふうんといい匂いがただよつて来る。長く神戸にとどまつていると肉が無くなつて来る。当時、馬はもちろん牛ものんびり歩いていた。「あれが欲しい」「へえ、あれが食べられまんのか、モーッツびっくりしたなあ」といわれたかどうかは知らないが、そんなこんなで、そんなにおいしいものなら食べてみよう、いい味だ、なんてことで大井肉店の開業となつた次第。肉を見る目は代々養われている。但馬牛の、コンクール入選牛を全部買いつつてもそのうちの二割しか使えるものがないという。かなりの損を見こしても、店の名前というか信用を守るという姿勢は、すき焼きにするにはもつたいないとも思える立派な霜ぶりにもあらわれる。

大井



すき焼きの材料。肉はさすがに最高級

「すき焼きは、肉と仲居さんのウデが勝負」と話す大井社長



肉に味をつけてしまうのではなく、たれにちよいとつけて、肉本来の味を楽しむしやぶしやぶの方があがつたかな?と思しながら、仲居さんがたいてくれたお肉にはしゃべます。あっさりした味付けだった。やわらかい肉の風味がこわれず口の中に広がる。ハクサイ、人参、エノキダケ、ふ、キクナ、豆腐と、おなじみの野菜も肉の味がしみ込んで、いつもと様子を変えている。

肉のさしみも食べてみたい。今度はオイル焼きにしようかな、誰を連れてこよう。次に期待と夢を持たせる味である。

すき焼き／4000円 しゃぶしゃぶ／4500円 肉さし／2000円
オイル焼／5000円 生田区元町通7番35号 木曜休
そごう店／そごう10F 251-0131 木曜休

□壁の穴

★スパゲッティ専門店。その種類は四十七

スパゲッティ専門店「壁の穴」。大阪の店は一度のぞいたことがあるが、パルパローレ店の元町店、以前、少しの間、私の番組のスポンサーでもあったのに、まだのぞいていない。「そんなことでは困りますねえ、それでも食べ歩きを趣味とするひとですか……」。壁の穴の辣腕マネージャー、中町女史に一喝されて、へえい、と飛んで行つた。

なんせスパゲッティの種類、四十七である。メニューを見て、即座にこれとこれ、といえるひとはかなりの通だと思う。これもいいけどあれも食べてみたい、これはどんな味がするのかなあ、なんてじつとメニューとにらめっこ、仲々決まらないから、ちょっと変つたものを選んでもらつた。

これがどんびしやり、私の好みと合つた。なんと私の大好きな納豆のスパゲッティなのです。メニュー風にいふと「あさり・しめじ・しいたけ・なつとう」というや



左／たらこ・いか・うに・いくら 右／若者のアイドル

「もちろんオーダーが通ってからゆでるのですが、やはりそのゆで加減がムツカシイです」と話す魚住店長

つ。あさりとしめじ、しいたけを煮いて、なつとうは、タバスコを少し、からしも少し、しよう油を軽く落して卵の黄味のねばりを加え、ゆで上ったしこつと腰のあるスペゲッティの上にかけたもの。関西人は納豆をあまり食べないと聞くが、仲々どうして、このメニューは大人気だとか。特に、朝食の味噌汁と納豆を、コーヒーとトーストに変えられた中年サラリーマン諸氏は、ことのほかこれがお好きだと。わかるわかる。これ一皿でかなりお腹はふくれたが、もう一皿、どうしても食べてみたかったのが、「たらこ・いか・うに・いくら」というやつ。なんだかお寿司屋さんみたいだが、いづれも私の大好物。無塩バターとたらこを、大きめのスプーンの上でまとめて、これも、あつあつのめんにからませる。うにもその時一緒に混ぜ、いくらは上にのせる。いかは、塩でゆでて仲間入り。たらこの赤がほんのりしたピンクに変って、塩かげんといい、実においしかった。

かくし味にこぶ茶を使っていると聞いてびっくりしたり感心したり。そんなことをすんなり教えてくれるところも気に入った。若者のアイドルなんて面白いメニューもある。お客さんが命名したそうな。ソーセージ、ベーコン、しめじ、しいたけ、ピーマン、トマトがしよう油味であえられる。七四七なんてのもあった。にんにく七、玉子四、ベーコン七の割合だからだそうな。ちよつとこつりした味を好む人には、サケ、えび入りのホワイトソース、特選メニューなんてコースになっているのもある。

飲物も、楊貴妃にシーザー、クレオパトラ。自家製ドレッシングのサラダもいい味。今度はおしんこというのに挑戦してみよう。

あさり・しめじ・椎茸・なつとう／10000円
たらこ・いか・うに・いわしうな／1450円
オペトラ／各200円

元町店／生田区元町通3-8 バルパローレ3F
第2、3水曜休
三宮店／生田区三宮町1-5 サンロイヤル10F
電332-4551

YOUR GUIDE TO HEALTHY LIVING YOUR GUIDE TO HEALTHY

美しい肌とは、潤いがあり、滑らかで、張りがあり、弾力があり、血行が良い—これらの条件を満たす生き生きしたお肌です。生まれた時から、しみや肌荒れの赤ちやんはいないはず。なのに、どうしてニキビやしみが気になつてくるのでしょうか。

貴女が朝晩時間をかけてお化粧をし、ふんだんにクリームや乳液を与えるお顔の皮膚と胸のあたりのお肌を比べて下さい。賢明な貴女にはもうおわかりでしょう。

化粧品というものはひとつ道具—女性を引付ける何か秘密の力を持っている様に見える道具です。美しい容器、パッケージ、パントフレット、考えぬかれたその名前、そして高価なことにまで、そんな秘密の力が潜んでいるようです。でも、本当はどうでしょう。

自然派講座 I 自然化粧品の話

外因的な理由（精神的疲労、内臓疾患）ももちろんありますが、外因的な理由によることも多いのです。そのひとつに私達が毎日使っている化粧品が挙げられます。化粧品は主に水分と油脂分からなっています。でも御存知の様に水と油はそのままだと混ざり合いません。そこでこれらを混ぜ合わせる薬品や香りを持たせる香料、長くその状態を保たせるための保存料などが必要なのですが、それらは殆どが石油から合成されたもので作られているのです。石油からなら気候や風土によって収穫が左にされる植物からと異なり計画的に生産できる上原価も安く、化学的に純粹で良い香りを持つものが作り出せます。ところが元来、人体の機能では分解しきれない鉱物油について、最近色々な問題点が懸念される様になつてきました。

そこで、ナチュラルハウスでは本当の意味で化粧品とは何かを考えてゆきたいと思います。できるだけ自然の原料を用い、お肌にやさしい化粧品を—



シンプルなデザインの自然化粧品

ナチュラルレター(2)



Natural House
ナチュラル ハウス 神戸店
元町1番街 078(392)3661
年中無休・10AM~7PM

内因的な理由（精神的疲労、内臓疾患）ももちろんありますが、外因的な理由によることも多いのです。そのひとつに私達が毎日使っています。でも御存知の様に水と油はそのままだと混ざり合いません。そこでこれらを混ぜ合わせる薬品や香りを持たせる香料、長くその状態を保たせるための保存料などが必要なのですが、それらは殆どが石油から合成されたもので作られているのです。石油からなら気候や風土によって収穫が左にされる植物からと異なり計画的に生産できる上原価も安く、化学的に純粹で良い香りを持つものが作り出せます。ところが元来、人体の機能では分解しきれない鉱物油について、最近色々な問題点が懸念される様になつてきました。そこで、ナチュラルハウスでは本当の意味で化粧品とは何かを考えてゆきたいと思います。できるだけ自然の原料を用い、お肌にやさしい化粧品を—

例えば、日本では昔から使われている椿油、ヘチマ、きゅうりなどの植物を主原料としたリマ化粧品。欧米の貴婦人の間で密かに愛用されたといわれるアボカドの果実を主原料につくられたアボカド化粧品。また、化粧品の被害を防ぐため、イギリスの消費者団体の手で生み出された純植物性のサンダースペリー化粧品。このようにできる限り安全な化粧品を取り揃えました。私達は本当の健康なお肌について皆様と語り合いたいと思っています。

(化粧品専門店)



大東

大戦中は特に頻繁に、しかかも女子だけに見られた

●初出版記念パーティ開く

話題のひろば

<I>

新谷英子さんを囲んで “いぶし銀の古都”の



上左は英子さんと父母の新谷英夫夫妻、上右は安好教育長のスピーチ、下左と下右は新谷英子さんを囲んで。

当夜は、発起人代表の横崎四郎
美術館長と、安好匠教育長、行吉哉
女神戸女子短期大学長らのスピ
チの後、サンTVの村上和子さん
のインタビューをはさみながら、
“いぶし銀の古都”的スライドと
おしゃべりがたっぷりと神楽殿で
披露された。伊藤ルミさんの弾く
ワルツで始まる祝宴に、土井芳子
さんの乾杯の音頭取りで“チエリ
オ！”松本幸三さんのカンツォ
ーネに田淵幸三さんのピアノ伴奏
で“ラボー！”向田俊博さんの
“英子さんに捧げるバラード”的
ギター演奏など優雅なタベだつ

九月十二日。さんちかタウンの
十五周年記念に、神戸の女流彫刻
家新谷英子さんは青銅とガラスの
出会いによる“アラベスク”を完
成。その大胆な発想は透明なガラ
ス作品の神秘さに魅せられた憧憬
からのひらめきにあつた。

さて、九月三十日。約一五〇人
の人々が集まり、生田神社会館で
『新谷英子“いぶし銀の古都”初
出版を祝う会』が開かれた。

一九七七年度神戸市文化奨励賞
を受けた英子さんが、街と人と風
景の中の“ガラスとの出会い”を
求めてドイツ、オーストリア、チ
ェコ、イタリア、北欧などを十一
ヵ月にわたって旅した写真と文の
記録。

△その49△

神鉄有馬口——蓬山峡——湯槽谷峠——有馬温泉

蓬山峡——清流ライン

佐野 弘利 △洋画家・二紀会同人△



猪の鼻小橋にて筆者

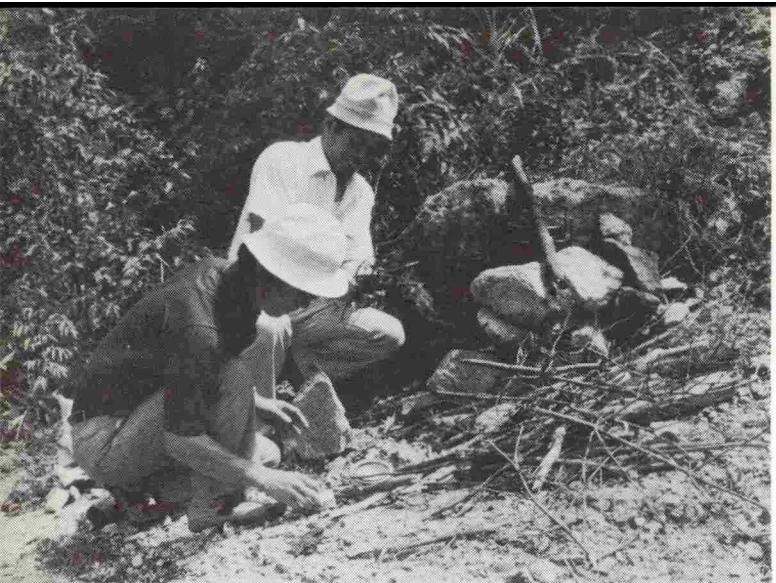
ここ数年、蓬山峡へ年二、三回、家族連れや私の所で絵を習う子供達をつれて飯盒炊さんにつれしていく。自然に恵まれない今の子供達は大変な喜びようで、沢蟹を取ったり、蛙を追いまわしたり、水着になつて七十センチ程の深みで泳いだりしている。日曜などは他の家族づれが竿を出して小さなハエやモロコを釣り上げている。子供達の中には絵を描くのはきらいだが、毎年蓬山峡にいのが楽しみで長年おけいこにくる生徒もある。

そんなわけで今回最も馴みのある蓬山峡を選んだ。

神戸っ子編集長のお兄さんの小泉正巳さん私の兄と三人で出掛けた。兄は若い頃から三十年近く高取山へ早朝登山し、一万余に達しようとする。酒もタバコもやらない堅物の山男である。午前十時有馬口から出発。西に唐櫃台、東に有野台とベッドタウンがありながら、ここ有馬口付近は全くの田舎風景である。白壁の土蔵、薑葺の

屋根があり心が和む。田圃の中に樹齢百年もあるうかと思われるこんもり茂った下に山王神社があり、境内にはいつて見る。よく手入れがいきどき清流の小川で手を洗い口をすぐのであろう。そこからすぐ大きく川の音が聞こえてくる頃になると両側に山がせまり渓谷になつていく。街中は残暑だったが、渓谷をぬつて吹く風は冷たくこちよい秋風である。都心から一時間で緑とせせらぎと秋風にふれられるのは私共神戸っ子の特権のように思える。休日はキャンプやハイキングで多数通るこの道も平日とあって誰一人出会わない。やがて右手に水道局の建物があり、山の中腹に鍋谷の滝がのぞまれ雄大だ。川は左にカーブし猪鼻橋を渡り間もなく、テント村に着く。赤や黄色のテントが点在し、敷地も広く、バドミントンやソフトボーリーでも楽しめそうだ。夏休みは賑やかだったであろうが、今日は誰もいない。砂煙まじりの秋風が吹く。このあたりに立札があり「松茸山につき入山厳禁す」とある。そういえばこのあたりは赤松ばかりの林である。

テント村から少し登った小川が交差した所で飯盒炊さんすることにした。氷水のように冷たい。飯盒のめしの味はハイキングのよさを全部集中した喜びがある。それから峰に向かって急な登りになり、道はぐつと狭くなる。険しい登りはわずかで、いたるところ泉が湧き源流になる泉がなくなる頃、もう湯槽谷峠に達する。狭い登山路の交差点になっている。東に六甲最高峰が望まれ



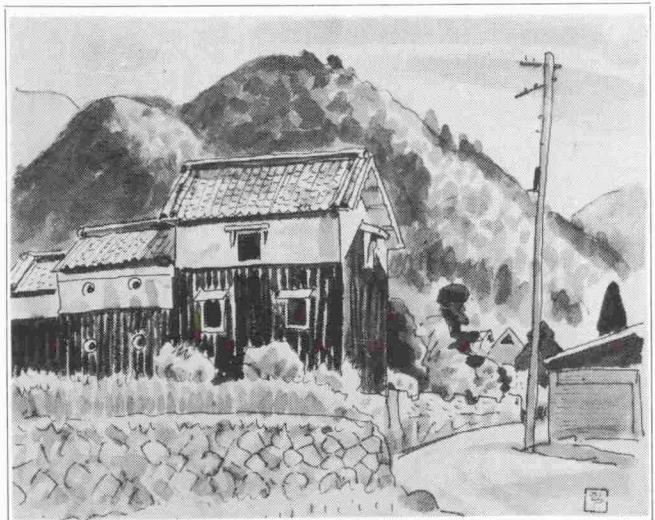
テント村のあたりで飯盒炊さんの準備に忙しい佐野さん兄弟

木の林を下る。また、このあたりから泉が湧き、大谷から有馬川をつくっている。視界が急に明るくなり白い大きなダムが目に映る。川に沿ってロープウェーの下を有馬へと歩く。ここで温泉につかり疲れをいやし、汗を流す。後でのビール一ぱいは最高にうまい。何か大きな事をなしとげたような満足感を覚える。

夏から秋にかけ、どの絵かきもそうであろうが、連日大作に取組み、頭も心身共すっしりと重くなっていたが、久し振りのハイキングは爽快だった。蓬山峡は地元の人々の話によると、もう阪神地区には、これだけ水質のよい川はないだろうとのこと。いたるところ泉が湧き、私はここを清流ラインと名付けたい。有馬口からの約九キロは小学生以上なら誰でも楽しめるコースである。



有馬口付近 絵・佐野弘利



△その 50 ▼

摩耶ケーブル下駅—奥摩耶ロード—エイ山上駅—地蔵谷—市ガ原—布引貯水池—新神戸駅

地蔵谷の椿

桜井 利枝 △作家△



地蔵谷道にて筆者

摩耶山上のレストハウスで早い日の昼食をすませ、天井寺に詣でてから地蔵谷を下る道に向かった。天井寺の裏道を行く途中のそこここに赤いよだれかけをしたお地蔵さんを見かけたので、愚かにもその道を地蔵谷と感違ひして、同行して下さったS氏の苦笑をかつた。因に、地蔵谷には一体のお地蔵さんも見られなかつたのである。それは流れというには余りにも幼なすぎ、せせらぎよりも稚さい。チロチロチロと岩の間を伝つてゆく水である。うつかりしていると見失いそうになるが、下るに下るに詰き屋根の家が多く、どこの庭先でも鶴を飼つていた時代である。村の中の小川の流れに、小芋の皮をむく木製の籠が掛けてあり、それが水車のようにクルクルクルクルと廻つていた。あの頃の水は澄んでいて当然だった。

「あつ 沢蟹」
先に歩いていたS氏の声にあわてて駆け下りると、朱い甲羅の小さな蟹が、濡れた岩の上をすべるように這つ

ていた。沢蟹の色は茶褐色ときまつてゐるようと思つてゐたのだが、紅葉はじめた楓の葉のような甲羅の色であった。そんなことを話しているうちに、もう蟹の姿は見えない。雲がくれならぬ岩がくれをしたのである。萩の花が咲きはじめ芒の穂も開いて、風は初秋らしい涼味をはらんでいるのに、歩いているとさすがに汗が滴る。足弱の私のために特に下りのコースを選んでいただいたのだが、急斜面が足もとから遙か下方の谷に落ちている細い道になると、なかなかどうしてスリリングである。それでけいに汗が流れる。細目のスラックスがじっとりと脚に密着して歩きにくい。S氏が屢々立ち止まって待つて下さる。

谷に入つてからは誰にも出会わなかつた。樹間からの日差しと、だんだん勢いを増してゆく流れの音だけが随いてくる。否、私たちがその水音を追つて行くのである。漸く谷川らしい流れになつた処の岩に腰をかけて、オレンジを食べながら休憩することにした。

水を掬うとやはり冷んやりしている。透き通つていて水を掬うのは、いつたい何年ぶりだろうかと思う。何十年ぶりといい直した方がいいだろうか。農村ではまだ藁葺き屋根の家が多く、どこの庭先でも鶴を飼つていた時代である。村の中の小川の流れに、小芋の皮をむく木製の籠が掛けてあり、それが水車のようくクルクルクルクルと廻つていた。あの頃の水は澄んでいて当然だった。

そんなことをふと思い出したが、都會育ちらしい若いS

いた。沢蟹の色は茶褐色ときまつてゐるようと思つてゐたのだが、紅葉はじめた楓の葉のような甲羅の色であつた。そんなことを話しているうちに、もう蟹の姿は見えない。雲がくれならぬ岩がくれをしたのである。

萩の花が咲きはじめ芒の穂も開いて、風は初秋らしい涼味をはらんでいるのに、歩いているとさすがに汗が滴る。足弱の私のために特に下りのコースを選んでいただ

いたのだが、急斜面が足もとから遙か下方の谷に落ちている細い道になると、なかなかどうしてスリリングである。それでけいに汗が流れる。細目のスラックスがじっとりと脚に密着して歩きにくい。S氏が屢々立ち止

氏に話すのは憚られ

「きれいな水ですね」

「でも、在り来りな言葉しか出でこない。」

「でも、この水は少し油分を含んでいるみたいですよ」

とS氏。

私はびっくりして水面を凝視するが、アブラらしいものは認められない。

「岩の色が変でしよう」とおっしゃる。

そう言われてみれば、水のよく当る岩肌は赤紫に近い色をしている。これはどういうことなのか。まさか地下のどこかに、石油の湧く鉱床があるわけでもないだろう

が、私はつい

「もしそうだとしたら、掘り当てたら大儲けできますね」と言つて笑われた。

頻りにつくつく法師の声がする。それに時々みんな蟬の抑圧的な鳴声が交わる。里ではそろそろコウロギの声が聞こえるというのに、山中にはまだ夏の大気が貯えられているらしい。密生した大樹の枝と枝、葉と葉の老公な重なりの中に、夏はまだ生きながらえているのだろう。山の中は冷んやりするだろうと思つて上衣を持ってきたのは、全く当を得ていなかつたことになる。

「この辺は椿の木が多いということですよ」

と教えられ、足もとばかりに気をとられていた目を上げると、なるほど濃緑色の艶やかな葉をつけた椿の木枝が頭上に延びている。藪椿らしい。幹の色が灰白色がかっているので、他の樹木との区別がつきやすい。相当な数である。

椿は早春の花であるが、山ではいつ頃が見頃なのだろう。椿にもいろいろの品種があるようだが、私は真紅の藪椿が好きである。

これだけ多くの木にまつ赤な花が咲けば、さぞ見事なことだろう。ぜひ見に来たいものである。花の落ちはじめる頃がよい。その時は今日とは逆に市ガ原から遡行して、流れる花を眺めながら歩くことにしよう。

地蔵谷道は下るにつれて渓流の水量音も増し、水音が心を和ませてくれる



ストップのさめない町づくりを

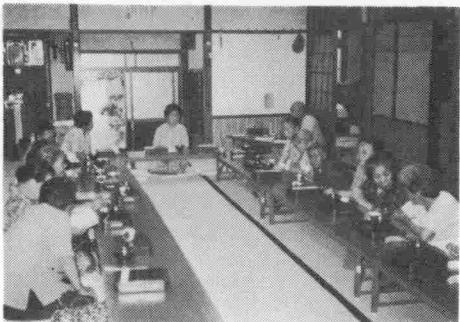
橋本 明△社団法人「家庭養護促進協会」事務局長▽

神戸市長田区の丸藻地区、といえば今や生活環境改善のための住民運動のモデルとして全国にその名を知られるようになつていている。

かつてこの地区には、ゴム・木材・油脂・金属・マッチ・プレスなど二六〇社にのぼる中小の工場や倉庫がひしめきあい、ばい煙、騒音、悪臭、大気汚染、排ガス、工場廃液の流れ流しなどさまざまな公害が集中し、「公害のデパート」のような様相を呈し、住民の四割が「かかるもゼンソク」に苦しみ、住民の生活と健康はおびやかされていた。

このままでは住民が安心して住めなくなる、という危機意識から住民自らが立ち上がりてまず公害の実態調査を手はじめに、公害追放、空間土地の確保、緑化推進、福祉運動など次々と住民が中心となつて新しい町づくりのための運動を手がけてきた。昭和40年から始まつたこの町の運動は次第に輪を広げ、着実に住民の中に定着していった。この15年間の住民運動のなかで常に住民が気を配つてきたのは、子ども、老人、障害者などの弱い立場にある仲間に焦点をあてることだ」と、この運動を中心になって推進してきた毛利芳藏さん(71)はいう。

この地域には三世代同居世帯や老人が多い。真野校区の人口八一二〇人



給食サービスを楽しむひとり暮らしの老人たち

人のうち、65歳以上の老人七八六人、そのうちのひとり暮らし老人一二九人、寝たきり老人二三人である。この地区では今年の春からひとり暮らし老人を対象に「給食サービス」を実施しており、このサービスも長い町づくり運動を背景として生まれてきたものであった。

小雨降る九月の終わりに、私は尻池南部公会堂を訪れてみた。毎月第一、第三土曜日に実施されている給食サービスを見せていただくためだった。

午前十一時半頃公会堂に入ると、本日の給食23人分がすでに委託されている給食会社から届けられていた。民生委員やボランティアの主婦がテーブルを並べて準備をしていると、お年寄りが次々と集まつて席に着く。私もいっしょに給食をごちそうになった。まず、フタをあけて色とりどりの豪華なメニューにビックリ。そしてこれがわざか三〇〇円と聞いて二度ビックリした。老人の負担は一〇〇円で、残りは尻池南部自治連合協議会から補助ができる。

「やっぱりよううで食べる」とおいしいなあ」「こはんが多いなあ」という満足そうな、嬉しそうな声が聞こえてくる。「困つたことがあつたら何でも民生委員に言うてや」と毛利さんが老人たちに声をかける。

「あの人は垂木へ行つてから今日は来られへんのや」と不在の老人の

消息をみながよく知っている。

「今日はあのおじいちゃん来てないなあ。どないしたんやろ」と一人の老人が立ち上がって、電話をかけにいく。「今日、給食やいうこと忘れとつた」といってみんなの食事が終わつた頃、やってくる人もいる。

給食サービスのネライはひとり暮らし老人の健康を守るということにあるのはもちろんだが、二週間に一度でもみんなが顔を合わせ、雑談に花を咲かせて交流を深め、老人の孤立化を防ぐところにある。この地区では、八六人のボランティアが友愛訪問をして老人の話し相手となり、地域ぐるみで老人を見守っている。

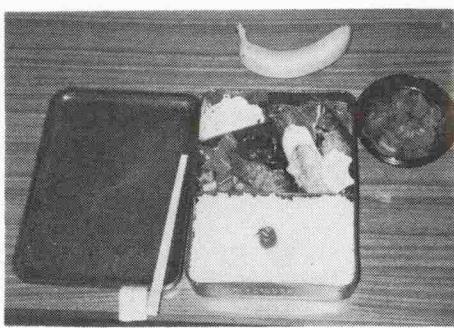
またこの地区では寝たきり老人の入浴サービスも行っている。二年前に開いた町づくり学校「保健医療教室」のなかで、寝たきり老人をかえている家族から「入浴させてやりたい」という声が出た。住民の声にこたえるため、全住民にカンパを呼びかけたところ10日間ほどで31万5千円も集まり、早速折りたたみ式ポータブル浴槽などを購入し、医師、民生委員、主婦ボランティアなどの協力で巡回して入浴サービスが実施できるようになった。「ここは下町ですから昔からみんな気どころのかつた人ばかりなんです。入浴でも全然知らん人が手伝うと緊張しますが、顔なじみだと老人も安心できる



尻池南部公会堂



食後、老人の話に耳を傾ける毛利芳蔵さん（左）



一食300円の給食

し、無理も言えるんですよ」と毛利さんは下町の良さを話してくれた。さて、給食が終わると時々ボランティアが演芸を披露して老人を楽しませてくれたり、保健婦さんが食事の指導や体操を教えてくれたりして健康面にも気を配つてくれるので有難い。

食後、一人の老人が毛利さんに話しかけた。

「老人ホームへ入つたら古いボスがいて、新米をいじめるねん。グズグズしどつたらどつきよるねん。」毛利さんは老人の一言一言にうなづいてじっくりと耳を傾ける。

住民自らの努力によって町の環境は少しずつ良くはなつてきたが、まだ問題は山積みしている。おりからこの地区はこのほど建設省が進めている「地区計画制度」のモデル地区にも指定され、住民からも大きな期待が寄せられている。

「『こんななん炊いたんや。食べてみて』と隣りへかけ込む嫁の姿がこの町にはある。』「スープのきめない町づくり」それは私たちの『ふるさと』であり、そこにこそ、孫から老人大までの生活の場がある」と書きつづった毛利さんの胸の中には、この町で半世紀以上を暮らして、この町を愛しつづけてきた、さまざまな思いがこめられており、未来への大きな夢が感じられた。

● TOKYO ファッションハーモニート

女の感性が生きた時

秦砂丘子さんにおへ

風の吹く屋上に

さまざまの人達が集つて来てくれました。

よく見れば、貴婦人ふう、うらぶれ流人、

風の人、異星人、車型人間と、まあ、ばらばらととりとめもあ

りません。勿論、皆様方も御招待申しあげた客の一員。

ごちそうは、青い星と風の音とそれに高速道路を行く光の点滅ぐるいですが、どうぞ、一緒に METAMO-METAL 屋上 ME NEW を味わってみて下さる



ショーカン間に秦砂丘子さん

ーションも、分量も程よく、はたまた、冷い料理、暖かい料理と、美酒を味わいながらのディナーは、アンドロメダ星雲の星の人になった気分で、酔い心地も満点がありました。特にそのメニューのなかからお気に入りをご紹介いたします。

食前酒—透明空気蒸溜酒、レジタルパンチ、東京25時海の花カクテル。オードブル一特に大傑作はフレッシュ・シェフェブ向け録音回路付、Prosciutto マンハッタン風明け方ソース。魚料理—シェイプアップジヨギング済の鮭マヨネーズ合え甘い殺氣入り舌平目のクリーム煮、白い稻妻、シルビア仕上げなど。肉料理—野兎のカリスマ流ブロイルド、シェフオリジナル飛ぶのが嫌い風うずら。サラダ—とてもクールでSnow Salad 一滴の光ふう。チューニング・トリフ黒固め、スライスピメント東京ジャンヌスタイル。ぱつとカラフルなデザート—ホームメイドはレモン・インフレ圈産、ラズベリーアイス田舎飛行士型盛付け、ストロベリー不死鳥スタイル、低血圧向き無重力シャーベット。の一日をファッショニエニーに舌鼓を打ったのであります。

秦砂丘子さんという“超感度女性”的献立で“メタル・ディナー”的フルコースは、素材も、色のコンビネーションに屋上ディナーのエピローグを迎えたのです。

秦砂丘子さんと、メタル・ディナーのフルコースは、素材も、色のコンビネーションに屋上ディナーのエピローグを迎えたのです。



★★★
ディナーが終った後、ショッキングピンクのTシャツ
にサングラスの秦砂丘子シェフにインタビュー。
——メタモ・メニューというファッショントーの“た
べもの”がテーマになるという発想のきっかけは?
「私自身、たべること」に非常に興味を持つていて
ですが実は去年、私の料理をつくってくれていた人がい
なくなりましてね、自分で料理を
つくるハメになっちゃつたわけです。
そのつくる努力がショーにな
ってしまった(笑)

実際、仕事が忙しいと、現実で
は美味しいものをつくれない、そ
んなウップンが沈殿して、ならば
“たべもの”は人間の原点だから
今年はこれで行こうと(笑)
——さすが色の魔術師、カラーモ
成がステキですね——

「黒から白、メタルな色、ディー
ー



長沢節さんと大内順子さん

フそして明るく冴えた色からまた“ディープな黒へとショ
ーの全体から考えて運んでいます。とにかく“たくさん”
は困りますからあきないショーにするために、傑作にア
ホな部分や、ずっとこけたところもいれて。お酒の色づか
いは私がデザイナーの酒徒番付で女性の“大閑”になっ
たせいか、やりやすかつたです」と。
どこか女のダンディズムを感じる秦砂丘子さんの、都
会的な感性にあふれたニットショーだっ
た。ごちそうさま。

さて、その夜、大内順子さんの“パリ市
のメダル受賞を祝う会”が東京会館で開か
れた。ファッショングジャーナリストとして
お茶の間のテレビに、パリコレやニューヨー
クのショーを持ち込んだ企画力と普及力は
大したもの。おめでとう! △小泉記△



<3>

ジーンズと ウエスタンブーツ

中村 武志 ● 谷山 美沙子

〔ウエスタンファッショング
カウボーイのカウボーイ〕

〔ジョイント3F「フット・ウェア」コーナー〕



ジョイント3F・Foot Wearコーナーにはありとあらゆるウエスタンブーツが並んでいます。

中村 ジョイント3Fにあるこの「フット・ウェアコーナー」にはウエスタンブーツが多種多様に品数豊富にそろっていて驚いた。デ

谷山 まず、少し小さめのサイズを選択すること。その後にデザイン。やや窮屈な感じのブーツを履き慣らして自分の足にピタツとなじませる、これぞウエスタンブーツの醍醐味じゃないかしら。

中村 僕はウエスタンファッショングの大ファン。今話題の映画、あのトランボルタ主演の「アーバン・カウボーイ」の影響もあってウエスタンブーツが大流行だつてね。谷山 西部のカウボーイが愛用していたブーツだから、普通のブーツに比べてトウがとがつてて。これはあぶみに足が入りやすいように。そしてかかとが斜めにカット（キューバン・ヒールという）されているのはあぶみを踏みはずさないため。丈が長いのは小枝や小石が入らないように、と考えて作られていてとても機能的なよ。

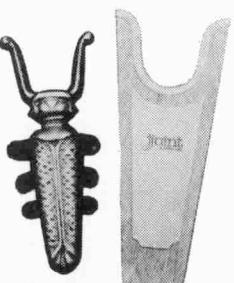


バッチャリとウエスタンファッショングで始めた中村武志くん。(中)「トニー・ラマ」のブーツがにくいですね。左端は3Fアシスタントマネージャーの香山薰さん。右端が谷山美沙子さん。(フット・ウェアコーナーにて)

ザインはプレーンなものからデコラティブなもの、素材もトカゲ、ヘビ、ゾウ、海ガメ、オーストリック、ワニなどがトウの部分に使われていたりしてまったく西部にやつてきたみたいだな(笑)。

谷山 本当のカウボーイたちの間でも人気の高い、テキサス生まれの「トニー・ラマ」をはじめ、「デュランゴ」、「ジャスティン」「アクメ」、「ダン・ポスト」、「ノコナ」など伝統のあるブランドが一堂に揃っている。最近レディスも格的でいいもの選びたい。オルシーズンOKというのもいいよ。

中村 丈夫だし手入れが良ければ何十年も履けるから、やっぱり本格的でいいのを選びたい。オルシーズンOKというのもいいよ。



●ブーツジャック
ウエスタンブーツを脱ぐときに使う。左は鉄製、右は木製。

ジーニングライフ スタート・ショット
jjoint
JEANING LIFE
三宮・ジョイント
〒650神戸市生田区三宮町丁目2番地

☎ 078・321・2046 A M10→P M7 水曜休

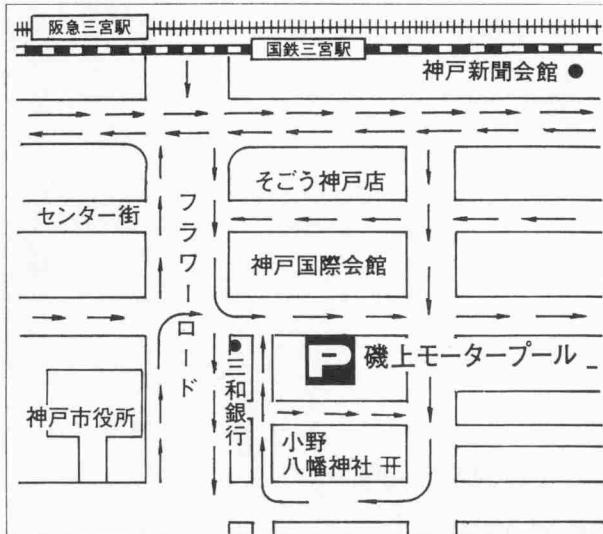


ビジネスに、ショッピングに

三宮で一番便利な

自走式立体モーターパークです

- 収容台数 300台
- 月極駐車可
- 年中無休
(8:00AM~11:00PM)



磯上モーターパーク (神戸国際会館前) TEL (078) 251-7873

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ

<神戸のファッション都市化をめざす>

K.F.S. news 54

事務局／神戸市生田区東町113-1

月刊神戸っ子内TEL (078) 331-2246

★KFS秋のファッション公開講座

ロマンとカジュアル 立亀長三さんの'81春夏の傾向

コウベ・ファッショングエア参加の公開講座、春に引き続い立亀長三さんを講師にお招きして来春夏のファッションの傾向をお話していただきました。

カジュアルとロマンティックを二本柱に、キルティングやボッシュ（ボシェットのこと。フランス語ではこういうそうです）そして片やフリルにフィット＆フレアのライン。タータンチェックがこの秋ヨーロッパのどの街にも見られたということも、かつてないほどのことだったそうです。ズボンは圧倒的にバギースタイル。日本でもう既にそうですが、ベルボトムは全く見られない。流行は早く回転するものダナ——と感慨。そしてスカートも形としては「長方形」がベースになるシルエットで、ローウエストとハイウエスト。とまあ、50年代を思わせるフリル等のロマンティックを加えた「エレジー」ファッションが主流のようです。

さてお楽しみのスタイル。ヨーロッパの街角のディスプレイや、展示会の写真の数々。

実際生のファッショングエアがわかるので、これは毎回とても好評なのです。

フランス、イタリア、ドイツ、イギリスなどの町も、タータンチェックとアップリケとキルティング。アップリケといふのは、秋のパリ・コレクションでとても素晴らしかった山本寛斎のイミテーションだそうです。ユーモラスなポップ。

ユーモアが、今時代になっています。ブラックであれホワイトであれ、人を揶揄する潤滑油。楽しいファッションはいいですよね。

というわけで来年の流行の作り方を学びました。今回はいつもより多勢の受講者。チケットを売って下さった会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

満員の受講生たち。流行を創り出しています。いまや神戸ファッションの流れを指導する大ゲサかな講座です。



熱井立亀講師

<会員ニュース>

★新会員のご紹介

森都喜夫さんく森商店

清谷さんのお友だちで、立亀さんの公開講座はいつも参加していましたとおっしゃる森さんは、長田でケミカルの素材を扱っておられます。これからマансリーサロンが楽しみのことと。三人のお子さんのパパです 森都喜夫さん 新入会員を歓迎中——KFSの新会員を募集中です。ファッションに興味のある方、大歓迎。



森都喜夫さん

★浦野さんがショウを開きます

11月15日(土) 2時～ 6時～
場所／神戸外国俱楽部 チケット／2000円

ニットデザイナーの浦野敏彦さんが久し振りにファッションショーをします。乞ご期待。

連絡先／アトリエC.R. ☎ 252-0303

★連絡係さんが変わりました

マансリーサロンや講演会の案内発送は渡辺三船さんくレディス渡辺と崔雅琴さんくコーシンにお願いすることになりました。出欠の連絡住所変更などはすみやかにご連絡をご協力下さいね 渡辺 331-1650 崔 鑑 391-1228

★中央区になります

12月から生田区、葺合区が中央区に変更。事務局は中央区東町113-1 月刊「神戸っ子」

Christmas Party '80

12月20日(土) 6:00PMより

場所／鳳月堂地下ホール

会費／6,000円

お楽しみクリスマスパーティの季節になりました。今年は趣向を変えて鳳月堂ホールを会場に、プレポートビアと題して楽しめます。いつもファションナブルな人たちの集まりとして、かなり有名になったKFSのパーティ、お洒落してどうぞ！



恒例ファッションショーも開催

